

市政を問う

平成21年 第2回定例会一般質問
質問事項・答弁の要旨

議員の一般質問の質問事項及び答弁の要旨について、一定のスペース内で様式は自由に各議員がまとめたものを掲載しています。

災害時のトイレ問題
庁内連携で事業展開を

公明党 さの 久美子

1. 自転車の安全利用について 小学生の自転車事故は多い。自転車整備を含む親子で参加できる講習会等考えるべき 市) 自転車マナーの指導は必要。今後の研究課題とする。
2. 防災 ①災害時のトイレ問題は二重三重の整備が必要。下水道使用のマンホールトイレの整備を避難所近くや公園を対象に下水道耐震化と同時に進める施策を求める。市) 下水道耐震化は今年度設計にはいるため、庁内連携の観点からも、早速研究をする。
②農地の果たす防災機能は大事。防災協力農地の情報をHPで周知し、学校にも情報提供を市) 最新情報をHPで更新する。学校へは教育委員会と相談し、進めていきたい。
③防災会議等に女性の視点を活かす必要があると考える。市) 現在は女性委員2名。その視点は不足しているため、7月の防災会議では、女性の視点での見直しを諮りたい。
3. 環境問題について ①環境家計簿、今年度市長の取り組みは 市長) 積極的に進める。
②社会全体にレジ袋削減の大きな流れができてい。市職員も昼食時のマイバッグ利用の努力を求める。市) 非常にいいこと。庁内でマイバッグ・マイ箸など進めていきたい。③エコキャップの回収報告と顕彰を求める。庁内の自動販売機横の職員用バケツ設置は評価する。市) 今年度は小学校6校、中学校3校が取り組む。1回目283kg、2回目130kgを引き渡した。④ごみ減量化、地道でも施策を一つずつ前進させていくべき。市) 達成目標の検証・評価と集団回収強化等、啓発活動にも努める。

府中のバイオ施設移転と
地下水対策について

市民サイド 森 喜行

●府中市のバイオ施設について…世田谷・用賀から当市に隣接する府中市浅間町の米軍基地跡地への移転計画がある国立食品衛生研究所は鳥インフルエンザなど、様々な細菌を研究する施設。軍事施設に近いこと、自衛隊との細菌戦を想定した協同研究も行うことからテロや事故に

伴うバイオハザードへの不安を指摘し、衛生研に詳細な説明や細心の安全対策を求めること、その目的のため府中市とも連携し、国への対応を協議することなどを求めました。また、市内及び近隣地区の細菌研究施設の安全管理の把握の状況についても質問しました。

●地下水の安全対策について…7年前、武蔵村山市内の工場敷地内の土壌汚染に端を発し、立川市内の国分寺市寄りの2ヶ所の浄水所がトリクロロエチレン等の高濃度検出により取水停止に追い込まれたことを捉え当該地から至近距離に位置する市内北町浄水所の安全対策、東京都の対応、1,4-ジオキサン等の発がん性物質について都の除去能力について質しました。市内の地下水の流れの把握の必要性と、あわせて市内に170ヶ所以上存在する民間井戸の保全策の必要性も訴えました。地下水の涵養域の奥多摩の森林の保全について、人手不足を補う、下流域の自治体として一定の貢献を図るべきだと主張しました。バイオ施設問題では空から、地下水汚染については地中から、脅威は市域を越えてやってくるのだから、市民の健康や安全を守るために地下水の上流域や風上の自治体の動向も常に注意しておくことが肝要であると、担当職員に広い視野の対応を求めました。

ユニバーサル社会へ
「障がい」に表記変更を

公明党 高橋 りょう子

＜教育現場での課題＞

高橋) 市内小中学生の食物アレルギーの実態。また、健康調査票に、なぜこの質問項目がないのか。更にアナフィラキシーショック対策は。市) 対象者は60人～70人と推測。調査票は今後、一步踏み込んだ内容に変えたい。またアナフィラキシー対策は、ガイドラインに基づきエピペン使用などを含め、各校に指導している。
高橋) 小学校高学年の体育授業前の着替え場所の件で、保護者から現状を憂慮する声がある。市) 体育館に男女別の更衣室があるのは10校中1校のみ。6校は教室をカーテンで仕切り、使用している現状。改善を検討したい。

＜福祉行政＞

高橋) 「障害」の「害」の字は、負の印象が強い。ひらがな表記に変えることを提案したい。市) 近隣26市中、4市が表記を変更した。市として障害者団体などの意見を入れ検討したい。
高橋) 視覚障がい者のデージー化の推進。市、

発送の書類は手で触れて識別できる工夫を。市) デージー化は、対象者の要望に添い推進する。また識別できる封筒を採用するなど今回作成する「障がい者福祉計画」に反映する。

＜健康推進＞

高橋) 健診率向上の目的で要望した近隣市での受診、また健康手帳の導入などの進捗状況は。市) 国立・小平市での受診が可能に。また既存の健康手帳は今回「健康ファイル」として刷新。健診時や各種講座の折、配付し活用を図る。
高橋) 6月は年1回の食育月間。市報などでアピールし、市民の意識啓発の機会としたい。

定額給付金、
子育て応援特別手当について

公明党 木島 たかし

問) 「定額給付金」「子育て応援特別手当」の申請書が送付された。支給が円滑に進むよう、コールセンターや窓口でのきめ細かな対応とともに、振り込み詐欺対策等、万全を期した体制を。政策部長) 丁寧な対応を心がけて進めていく。
問) 国会において審議中(5月27日現在)の補正予算でも社会保障、雇用対策、環境問題への対応等、様々な施策が盛り込まれている。関連交付金の動向に注視して、成立の際はスピーディーに実行出来るよう求める。
政策部長) 速効性の必要を感じている。成立後、課題の解決のために取り組んでいく。
問) 駅のバリアフリーについて。JR国分寺駅のエレベーター、エスカレーター設置工事が間もなく完成するが、当初の予定よりも遅れてしまったことも事実だ。今後の西国分寺駅の工事(H22年度完成予定)に遅れが生じないか懸念を感じる。工程表の提示等、JRに強く要望を。
福祉保健部長) JR内部での検討結果が7月頃に示される予定。しっかりと要望していく。
問) 市の庁用車に青色回転灯を装着しての防犯パトロール車両が今夏から3台→14台への増は評価。その上で、例えば、小学校の下校時間に合わせた運行等、柔軟な運用を検討すべき。
総務部長) 業務の都合もあるが、工夫したい。
問) 資源プラスチック分別の品質検査。委託先の検査の結果次第では市財政に大きな影響を及ぼす可能性もある。昨年では再検査で合格になったが、改善に向けてどのように取り組んだのか。
環境部長) 出前講座の開催等を通じて市民の御協力をいただく中で、改善に結びついている。